

建設的な対話を通じた持続的な企業価値の向上を目指して

塩野義製薬株式会社 代表取締役社長 手代木 功

このたびは「2019年度（第25回）ディスクロージャー優良企業選定」におきまして、3年連続で医薬品部門の優良企業にご選定いただき、誠に光栄に存じます。

2014年に発表した中期経営計画SGS2020につきまして、5年目となる2018年度は、売上高および各利益面が順調に拡大いたしました。また2020年度の経常利益やROE、ROICをはじめとする目標に対しても順調に進捗しています。SGS2020の目標達成に向け、引き続き気を引き締めて取り組んでまいります。さらに、医薬品産業を取り巻く環境や人々の生活、価値観が激しくかつ多様に変化する中で2020年以降も成長し続けるため、「次世代成長ドライバー候補であるパイプラインの研究開発の推進」と「国内・海外事業の強化」に加え、当社とは異なる強みを持つ他社・他産業との連携を通じた「ヘルスケア領域における新たな価値の創造」にも注力してまいります。

このたびの選定では当社のフェア・ディスクロージャーへの取り組みを高くご評価いただき、昨年度から順位が大きく改善いたしました。広く社会に信頼される企業となるためには、経営の透明性が重要な責務の1つと考えています。この考えに基づき制定した「ディスクロージャーポリシー」において、株主・顧客・社会・従業員の4つのステークホルダーに会社情報を公平かつ適時適正に開示することを定めています。株主・投資家の皆さまとの対話につきましても、フェア・ディスクロージャーの精神に則り、経営層お

よびIR担当部署が連携して推進しております。

その上で、株主・投資家との対話において、当社や私自身のことをよく調査している投資家や証券アナリストの方から、「会社のここについてもっと詳細に知りたい、あなたのここが知りたい」と問われることが多々あります。そのような時に答えないという選択肢を安易には取りたくありません。「他の投資家には言っていないから言えない」と答える会社もあると聞きますが、それはフェア・ディスクロージャー・ルールや株式市場におけるエンゲージメントの目指すあり方ではないと思います。投資家が企業のことをしっかりと調べ核心を突いた良い質問をする場合、同様の質問への回答に差が出ないように留意をしながら最善努力で回答をするようにしています。勘所を押さえた難しい質問に対する回答を考えることは楽しく、「あの難しい質問に良い答えができた」と感じるときには自分自身も高い満足度が得られます。

当社は、4つのステークホルダーに対して常に「最適なバランス」を以て接し続けることが、企業価値を高める上で最も重要であると考えています。今後もこのようなステークホルダーとのバランスが保たれているかを要所で確認しつつ、株主や投資家の皆様のご関心やニーズの変化にしなやかに対応し、建設的な対話を通じて継続的な企業価値の向上と持続可能な社会の実現に向けて取り組んでまいります。引き続きご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。